

※本メールは電気学会会員（電子・情報・システム部門にご所属）でメールアドレスをご登録されている方にお送りしています。

C部門会員 様

★★「C部門メールマガジン（2014-02号）」★★

電子・情報・システム部門
部門長 宮崎 道雄

目次

- [1] 部門長からのメッセージ
- [2] お知らせ
- [3] 部門大会のご案内
- [4] 研究会のご案内
- [5] 部門誌のご案内
- [6] 特集号論文の募集
- [7] 調査専門委員会などのご案内

1. 部門長からのメッセージ

平成26年5月30日にC部門長を拝命されました宮崎でございます。これから2年間C部門のために精一杯身を粉にして尽くしていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。
今回から順次、部門の事業計画とその結果、役員会の様子や役員の紹介等によって、C部門会員の皆様はC部門をこれまで以上に身近に感じて頂ければ幸いです。
最初に、既に公表しています平成26年度事業計画の全般的な事項を記載し、次に現在の検討事項についてご報告したいと思います。

1. 平成26年度事業計画の全般的な事項

C部門は、電子・情報・システムに関連する幅広い学術分野を対象としており、対象分野が学際的であり、競合する学協会が多いことが大きな特徴となっている。学際的な分野の中で部門活動を活性化して行くためには、C部門におけるさまざまな研究調査活動をC部門大会・研究会・部門誌・共通英文誌へ結びつけると同時に、関係する国内外の学協会との間で研究調査活動の適切な連携を行なうことが重要となる。

中長期的には、部門誌への投稿論文数の好調や部門大会の講演数に拡大基調を維持しながら、過去実施した技術委員会の再編の定着と効果に基づく研究調査活動の一層の活性化を推進する。具体的には時宜を得た調査専門委員会や協同研究委員会の新設などを中心に研究調査活動の活性化を図り、その成果を部門大会、研究会、さらには部門誌へ有機的に結びつける。また平成26年度よりC部門論文賞を新設して質の高い論文を顕彰することにより部門誌の活性化を促進する。さらに、論文発表、部門大会等での国際化の拡充に向けた施策・具体化案の定着と更なる活性化を図り、国際的な活動の活性化に結びつける。これらにより部門全体としてバランスの取れた継続的な発展を目指す。

また、最近の部門大会における論文数・参加者数の増加を踏まえて2011年大会から実施した、部門大会の3日間化を継続するとともに、および部門大会におけるシンポジウムセッションや学生ポスターセッションを拡大するとともに、2013年大会より開始した英語セッションや英語論文の書き方セミナーなどの国際化施策を維持・発展させ、部門大会の活性化および国際化と会員サービスの一層の向上を推進する。

以上を含め、活力ある部門とするための施策、会員数の維持・増加に寄与する施策、および部門運営の効率化・活性化などは継続的に検討・実施してゆく。平成26年度は、前年度までの計画および実績を踏まえ、基本的な方針を継続しつつ、以下の5点に重点的に取り組み、部門活動が会員にとり魅力あるものとなるよう努力してゆく。

(1) 部門会員および会員外への情報提供の強化
部門誌特集号の計画、部門大会・研究会の予定などの情報を部門メールマガジンなども活用して積極的に提供し、論文の投稿、部門大会・研究会への参加などを喚起する。また、部門大会でのアンケート、部門Webサイトなどを使い、広く意見聴取に努め、部門活性化等に繋げる方策を継続する。
平成22年度より増員した広報・情報化役員および委員を中心として広報・情報化活動を一層強化し、部門会員に加えて会員外にも役立つ情報提供を推進する。

(2) 部門収支の改善
部門収支の一層の健全化を図るため、部門誌の充実・活性化、部門大会の発展の維持、技術報告書を活用した有料講演会の開催、会員企業への研究会資料の年間購読依頼、時宜を得た論文特集号の企画等により収入増を図る。

(3) 非会員への入会勧誘
部門大会・研究会における非会員への入会勧誘、非会員の論文著者や非会員の調査専門委員会委員および協同研究委員会委員への入会勧誘など、地道な会員増加の努力を継続する。

(4) 境界領域の活性化
他部門、他学会との境界・学際領域をカバーする研究調査活動を推進するため、時宜を得た調査専門委員会および協同研究委員会の設置を積極的に行なうと同時に、技術委員会の活性化に関する検討も継続的に実施する。特に、

境界・学際領域の研究調査活動においては、積極的に協同研究委員会の形態を活用し、中期的な活動分野の拡大、会員増、および論文投稿、部門大会、研究会の活性化に繋げる。

(5) 国際化推進施策の立案・実施の継続
部門の国際的活動の活性化を図るための施策立案と実施計画策定の活動を継続する。具体的には部門大会での英語発表セッションの拡大、英語論文の書き方セミナーの継続、D部門につぐC部門英文誌新設の可能性の検討、部門主催/共催の国際シンポジウムの拡充などをテーマとして取り組み、部門の国際活動の活性化に繋げる。

II. C部門大会

今年度のC部門大会は、平成26年9月3日(水)～6(土)に島根大学で開催しました。総参加者は、676名となり過去最高となりました。なお、詳細はNews Letter 2015年1月号をご覧ください。

・H26年の基礎データ

論文数	465件	(H25年 480件)
セッション数	56セッション	(H25年 52セッション)
総参加者	676名	(H25年 626名)
会員	387名	(H25年 313名)
学生会員	141名	(H25年 161名)
非会員	46名	(H25年 52名)
非学生	102名	(H25年 100名)
学生入会者	25名	(H25年 36名)
懇親会	184名	(H25年 194名) *招待者を含む
見学会	70名	(H25年 64名)

III. 国際化

平成26年度事業計画の全般的な事項の(5)にありますように進めています。

具体的には次のようになります。

- (1) 部門大会での学生英語発表セッションの実施案の改正
- (2) 部門大会での国際セッションの新設の検討
- (3) 部門大会での英語論文の書き方セミナーの継続
- (4) D部門につぐC部門英文誌新設の可能性の検討
- (5) 部門主催/共催の国際シンポジウムの拡充

(1)については、改正案を役員会に諮り審議中です。(2)については、検討を始めたばかりですが、次回の長崎大会で実験的に実行できるように鋭意努力中です。(3)は評判が良いので続けます。(4)は、部門誌の掲載論文の価値を向上させるためにどうしても必要と考えています。そのために早急に国際化検討WGを立ち上げるつもりです。和文誌の編修委員会に加えて、英文誌の編修委員会を立ち上げなければなりません。幸い、来年度より役員会の役員が2名増になり、国際担当にすることが決まっています。国内の英文誌に投稿するインセンティブとして、外国の英文誌と比較して査読期間が短いとかSCI登録されているとかが必要になると思います。もし英文誌が出来れば、(2)も英文誌に同時投稿できるなどのインセンティブが考えられます。(5)は、現行を拡充していきたいです。

IV. 記念事業

C部門として記念行事は、2つあります。

- ・2015年長崎でのC部門大会は、25回目になります。
 - まだ間に合いますので、皆様方からご提案頂きたくお願い致します。
 - ・C部門の創立は1987年ですので、2017年が創立30周年の記念の年になります。
- この記念事業として英文誌発刊が取り上げられれば、望外の喜びです。

皆様からのご意見を拝聴し、今後の活動に生かして皆様にとっても魅力あるC部門を構築したいと考えています。

2. お知らせ

- 2.1 平成25年度 部門貢献賞などの受賞者は、▼こちらです▼
http://www.iee.jp/eiss/wp-content/uploads/eiss/award/award_H25.pdf
- 2.2 【締切11/30】平成26年度 表彰受賞候補者推薦をお願いいたします。
▼詳細はこちらを参照ください▼
http://www.iee.jp/eiss/?page_id=433

3. 部門大会のご案内

平成26年C部門大会は、盛況のうちに無事いたしました。
<http://www.iee.jp/eiss/conf2014>

670名を超える参加をいただき、無事終了することができました。
お礼申し上げます。

なお、平成27年は、8/26(水)～29(土)に長崎大学での開催を
計画しています。こちらも是非ご参加ください。
▼平成27年度開催の部門大会のご案内はこちらです▼
<http://www.iee.jp/eiss/conf2015>

4. 研究会のご案内

▼今年開催予定の研究会のご案内、ならびにプログラムはこちらです▼
http://www.iee.jp/?page_id=3137#link-c

皆様のご参加をお待ちしております。

5. 部門誌のご案内

▼最新号の部門誌の目次、ならびに本文はこちらです▼
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ieejieiss/-char/ja>

6. 特集号論文の募集

▼現在論文募集中の特集号のリストはこちらです▼
<http://www.iee.jp/eiss/cfp>

- (1) 平成26年電子・情報・システム部門大会：平成27年7月号
〆切：平成26年10月20日（月）
- (2) 知能メカトロニクス分野と連携する知覚情報技術：平成27年8月号
〆切：平成26年10月27日（月）
- (3) サステナブル社会・先端応用へ向けたレーザプロセッシング技術：
平成27年9月号
〆切：平成26年11月25日（火）
- (4) 産業界を支える情報通信技術：平成27年10月号
〆切：平成27年1月13日（火）
- (5) 電気関係学会関西連合大会：平成27年11月号
〆切：平成27年2月23日（月）
- (6) 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会：平成27年12月号
〆切：平成27年3月9日（月）
- (7) 機械学習が拓くシステムイノベーション：平成28年3月号
〆切：平成27年5月25日（月）

皆様のご投稿をお待ちしております。

7. 調査専門委員会などのご案内

▼現在活動中の委員会の一覧はこちらです。▼
<http://www.iee.jp/eiss/tc>

▼委員を公募している委員会の一覧はこちらです。▼
http://www.iee.jp/?page_id=3171#link-c

▼新しい調査専門委員会の公募についてははこちらです。▼
http://www.iee.jp/eiss/?page_id=409

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

※このメールアドレスは配信専用となっております。
本メールに返信していただきましても、ご質問・ご依頼などにはお答え
できませんので、あらかじめご了承下さい。

=====

▼メルマガ配信停止またはe-mailアドレス変更の手続きは、こちらから▼
https://www.iee.or.jp/cfml/0A/front/login/fco_Login.cfm

■今回のIEEJ EISS ニュースはC部門広報・情報化担当がお届けしました。■
【本メールへの問い合わせはこちらへ： c-div@ieej.org】